自己評価および外部評価結果(1ユニット)

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の気持ちを大切に尊敬ある心で温かいケアを目指している。会議等で理念を周知徹底し、具体的なケアに繋げている。	職員の目が届きやすい場所(各ユニットの事務所)に理念を掲示している。スタッフ会議、部署内研修等、折に触れて確認し、理解を深めている。また、新人研修の機会を利用して、職員に周知している。個別ケアに重点を置いたケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に入会し、回覧板を回したり、清掃活動に参加。毎年地域の祭りに協賛し参加している。	散歩がてら、職員と一緒に回覧板を近所の玄関先まで持って行くことで、近所の方との交流に繋げている。また、町内の清掃活動や地域のお祭りに参加したり、地元中学の職場体験を受け入れたりしながら、日常的に地域の方々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学生の職場体験学習の受け入れ、ニチイ学館・ヘルパー2級の実習を毎月数名受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は(季節)行事、避難訓練等を通じて生活の様子や取組を家族、地域の方に参加して頂き報告・意見交換をしている。	2ヶ月に1回、避難訓練やホームの季節行事に合わせて行っている。地元の消防署や町内会長、女性ｸﾗﾌﾞの方々が参加して、事業報告や意見交換を交え、活かされた会議を目指している。	地域包括支援センターへ定期的に声かけを行い、事業所の状況や変化・様子を把握してもらうと共に、相互に連携することが必要ではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市社協、権利擁護の方の訪問時、日頃の生活の様子やニーズを伝えて連携を取っている。認定更新の機会にも担当者への情報提供している。提出書類は出来る限り持参するようにしている。	認定更新の書類を提出する際等、利用者と一緒に出向いている。また、社会福祉協議会から権利擁護を支援する方が来た時に情報提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に「身体拘束ゼロへの手引き」「楽々園　身体拘束廃止ガイドライン」を基に勉強会等を行い、徹底理解を図っている。	利用者の希望・要望に沿ったケアを実践するため、また、防犯・安全への配慮から、日中、玄関や門扉のカギはオープンにしている。カンファレンスの中で身体拘束について小勉強会を行っている。今後、社内での合同研修を検討している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファレンス等で高齢者虐待防止関連法について、職員が一人一人が理解・認識できるよう話し合いをしている。又職員の心身状態の把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	金銭管理、判断の困難な方が制度を利用している。他者についても必要に応じて説明をして活用の援助をしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	可能な限り契約前に来所頂いたり、訪問を重ねる等し、入居時に十分時間をかけて説明し、理解・納得して頂けるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や面会時に意見や要望を聞き、素早く取り入れ運営に活かす。意見箱を常時玄関に設置している。	日頃から利用者の声に耳を傾けると共に、家族に対して運営推進会議の中で時間を設けたり、電話連絡したり、来訪した際、直接話を聞いたりしながら、意見や要望等を聞き取り、運営に反映させている。意見箱の利用は少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社会議・主任会議にホーム長、主任が出席し職員の意見等を伝える場があり、各ホームとの意見交換の場もある。職員会議も毎月行っている。	各ユニット毎にコミュニケーションノートを作成し、意見や要望、提案等を書き記している。各ユニットの主任にチェックを任せており、その中から議題を取りだし、話し合う機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気分転換のできる休憩室を利用し、個別に職員の悩み等を聞くように、何でも話せる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修はレベルに合わせて充実して取り組んでいる。ふれあいセンターの介護職フォローアップ講座・介護福祉士会の講座等に参加し、報告書を閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所に4か所のグループホームと施設があるので日頃の交流を行っている。他グループホームの見学、行事のお誘いをお願いしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別対応で不安なく生活出来るよう配慮。担当制でじっくり関わり、信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの家族の悩み、苦労、思いをしっかり傾聴し受け止め、不安軽減に対応援助している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にしっかり話を聞いた上で状況を確認し、何を必要とされているかを見極め、サービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に寄り添い共感することで壁をなくし、それぞれに役割分担し、協働しながら和やかで落着いた生活ができるよう声かけしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームは家族の協力なくしては成り立たない事の説明とお願いをするとともに、日頃の状態をこまめに報告・相談しながら同じ思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取り、電話連絡を取る等の支援を行っている。昔からの行きつけの美容院を利用される方、お墓参りに行かれる方もおられ、知人、友人が継続して遊びに来られている。	各利用者の家族や友人・知人に宛てて、年賀状を送っている。近所の喫茶店でお茶したり、行きつけのお店に買物へ出かけたりしている。また、デイケアを利用している方もおり、在宅時代の友人・知人に会い、懐かしむ方もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で個別に話を聴いたり、なるべく皆で過ごせる時間や場所作りをしたりしながら、利用同士の関係が円満になるような働きかけをしている。又職員も同じ時間を共有する様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	馴染みの職員が機会を作って訪問に行ったり、行事のお誘い参加をして頂いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人とじっくり話し合う。困難な場合は家族からの情報を得るようにしたり、日頃の行動や表情から思いを汲み取っていくようにしている。	日々の関り合いの中で、利用者の表情やしぐさ等から、希望・意向の把握をしている。耳が遠い方にはホワイトボードを利用して、筆談も行っている。利用者本人・家族・職員を交えた交流もあり、その中で発する一言一言に柔軟な対応に努めている。職員全体で利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に今までの生活歴を記入して頂く書類があり、その人への理解、把握に役立てている。本人との会話の中から聞き出すこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から本人、家族との雑談の中で常にアンテナを張って、情報収集し、思いを知るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに基づいてケアを行い、その事に関して月1回カンファレンス及びモニタリングを行う。本人の意向を踏まえ、家族に面会時、電話で意見をもらい反映させている。	月に一度、各担当者を交えたカンファレンスの中で、ケアプランについて話し合っている。家族からのプランに対する要望等は、電話や来訪した際に聞いている。また、その都度、利用者本人から希望や要望を聞き出し、ケアプランに反映させている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日常変化、気づき、本人の言葉、個別のケアプランを実践した詳細を、その日の勤務者が記入している。連動したケアをすることで、ニーズや課題が見え、見直し評価に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族が「生活スタイルを大きく変えたくない」との希望でデイケアに行かれ、連動した支援を行っている。（2名）訪問マッサージ（3名）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進鍵には町内会長、福会長、民生委員、愛育委員、女性クラブ、地域包括支援センターの職員に参加を頂き、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係が築けている。警察署の巡視もお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人やご家族が希望するかかりつけ医としている。必要に応じて受診の付き添い、家族とも同行し情報提供をしている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医への受診を基本としており、緊急時や家族の都合で同行できない場合は、職員が代行している。事前にGHで作成した手紙をかかりつけ医に持参することで、結果や情報を共有している。また、協力医療機関も確保しており、適切に連携しながら受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置できていないが、日々の関わりの中で体調、表情の些細な変化を見逃さないよう早期発見に取組み、記録に残しながら主治医に助言、対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族を交えたカンファレンスに参加させてもらいホームの希望を伝えるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、安心した最期が迎えられるように、何度も話し合いを重ね、随時意思を確認しながら支援に取り組んでいる。	入居時に家族と看取りの契約書を交わしている。家族の希望があれば随時、主治医・家族・本人・職員の四者で話し合い、終末期に向けて取り組んでいる。最後まで事業所で看取ってあげたい気持ちを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、定期的に勉強会を行っている。特に新人職員に対して初期対応の方法を身につけるべく努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、避難訓練、消火訓練を年2回行っている。運営推進委員会で協力をお願いし、地域の方々にも参加して頂いている。	年2回、地域の消防署と連携して、火災の消火訓練や地震を想定した訓練を行っている。運営推進会議に参加している町内の方や女性ｸﾗﾌﾞの方々も交え、地域に密着した訓練を実施している。また、災害に備え2日分の非常食や水、コンロ等、常備している。	避難経路図を見やすい・確認しやすい場所へ設置することで、救助に駆け付けた人や誰もが確実に避難できるのではないだろうか。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴といった個人的な事は十分プライバシーに配慮しながら、本人の気持ちを大切にしながらさりげない声かけ、ケアを心がけている。	入居時、個人情報等に関する契約を交わしている。個人ファイル等は、鍵付きの棚で保管し、流出しない様に努めている。また、言葉遣いにおいて、職員同士でお互いに注意し合いながら、また、カンファレンス等で話し合いながら、細心の注意を払って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人に合わせた小さな自己決定の場面を極力設定し、答えやすく、選びやすい選択が出来るよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別対応を優先したケアを心がけ、その中でしたい事、過ごしたい場所を尊重している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に本人の意向で決めている。整髪、美容には気を付けている。化粧やマニキュア、アクセサリーを楽しまれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した旬の野菜を使ったメニューにしたり、誕生会をしたり外食、弁当を利用している。食事は職員と一緒に食べている。準備、片づけ、食器洗いも出来る範囲で一緒にしている。	事業所の畑で採れた野菜を使って、彩りよく調理している。ミキサー食やきざみ食等、利用者に合わせた形態であり、栄養やカロリー、食事量も考慮されている。また、キッチンスタッフノートを使い、利用者の変化にも柔軟に対応できるよう連携を図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥、刻み、ミキサー食、トロミ、ゼリー等個々に対応している。栄養補強、鉄分補強、カロリー制限の方にも工夫して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の嚥下体操、食後の口腔ケアは職員間で統一できている。週1回訪問口腔ケアを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを知り、時間毎に誘導しトイレで排泄できる事を目指している。紙オシメ、紙パンツ、パット類は本人に合わせた物を使用している。	職員は各利用者の排泄時間を把握し、誘導している。また、オシメの使用量をチェックし、家族の負担も考慮しながら、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を取りながら、自然排便を目指し、毎朝の定期的な運動と水分補給徹底に力を入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆったりと個別に関われるように十分時間を取り、本人の意思を大切にした対応を心がけている。	週2回を基本とし、利用者本人の希望に沿った入浴支援に努めている。また、入浴を拒否する利用者には、時間や職員、ユニット移動等、工夫しながら対処している。また、夜寝付けない方には足浴を行い、安眠へ向けての支援を行っている。現在、重度化への対策として、リフト浴を導入すべきか検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活パターンにあわせて日中はできるだけ体を動かして生活リズムを作り安眠して頂けるよう努めている。体調に合わせ午睡をして頂き、穏やかに過ごせるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食前、食後の服用は誤飲がないように必ず声に出して確認をしている。薬の処方、効能、副作用の説明をファイルにして保管して、全職員に分かるように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ捨て、洗濯物たたみ、食器洗い、お盆拭き等出来る手伝いをして頂いたり、折り紙、塗り絵、ちぎり絵、カラオケ、編み物等楽しく参加できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出したい入居者の希望や願望に合わせて散歩、買い物、外食等出かけている。又季節に合わせてお花見、遠足、紅葉、菊花展等にも参加頂き出かけている。	日常の習慣として、事業所周辺を散歩したり、買い物に出かけたりしている。家族の1/3は、積極的に訪問し、一緒に食事に出かけたりしている。3日間の中学生職場体験の中で、必ず1日を楽しめる行事（遠足等）にあてるなど、少しでも外出の機会を増やそうと努力している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人んが少額持っている方もいるが基本的に金銭は預かっていない。立替をして希望の物を購入して頂き充実感を味わってもらうよう心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望があれば本人自身あるいは職員が電話をかけたり、手紙を書いたり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所は常に清潔を心がけ、ホールや民室は手作りの作品や共同制作の壁画等で季節感を感じて頂いている。	各ユニットのカラーに合わせて、机の配置や壁の飾り等考えており、利用者にとって居心地良い空間となっている。天窓からあふれる光をロールカーテンで遮ったり、湿気や温度にも十分注意しながら、より良い共同生活が送れるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は個々の性格や好み、人間関係を考慮して配置し、穏やかに快適、安心して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた馴染みの家具や物を持ち込み、また自身手作りのカレンダー、家族の写真、ポスター等を飾り安心できる居心地の良い空間作りを工夫している。	事業所支給（ベッド・タンス）の物以外は、使い慣れなれた馴染みの物を持ち込むよう家族に提案している。利用者本人の希望で畳を敷いたり、自分で作成した折り紙等の作品を壁に飾るなど、好みの物に囲まれた自分らしい居室空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所やトイレ等分かるように表記し、混乱を避ける工夫をしている。		